

調査月報 2017/05

目 次

A.台湾経済	1. 景 気 01	2. 物 價 01	3. 失 業 率 01	
	4. 通 関 貿 易 02	5. 鉱 工 業 生 產 02	6. 小 売 業 売 上 高 02	
B.トピックス	2017 年 Q1 の経済成長率+2.60%（暫定値）、IT 輸出が好調 03			
C.経済統計	台灣主要經濟指標 04	物 價 指 數 06	雇 用 概 況 06	貿 易 統 計 07
	鉱 工 業 生 產 指 数 10	商 業 売 上 高 伸 び 率 10	為 替 相 場 11	対 台・對 外 投 資 統 計 13

みずほ銀行
台北支店/台中支店/高雄支店

1.景気 2017年3月**a.景気総合判断点数**

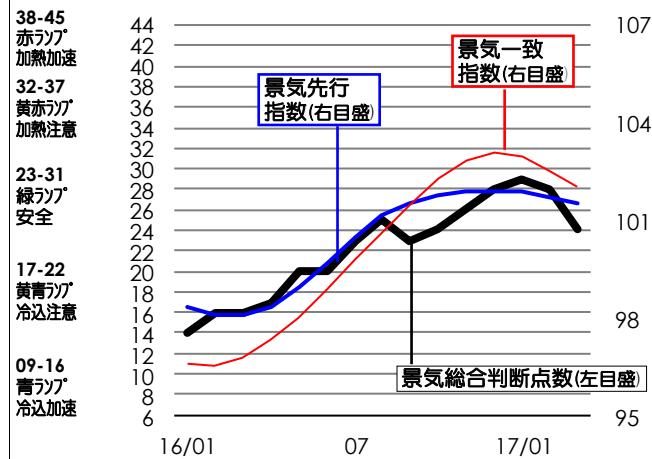
前月より4点下落し24点となった。景気対策信号は安定を示す「緑ランプ」を維持した。当局は、景気は緩やかな回復傾向にあり、上半期に加熱傾向に転じる可能性がありとの見方を示した。

b.景気動向指数

- ①景気一致指数(当面の景気動向を示す指標)
機械・電機設備輸入額、電力使用量、鉱工業生産指数等の減少で前月比で下落した。
- ②景気先行指数(数カ月先の景気動向を示す指標)
SEMI 半導体 B/B レシオ、輸出受注指数、M1B 等の減少で前月比下落した。

*SEMI=国際半導体製造装置材料協会

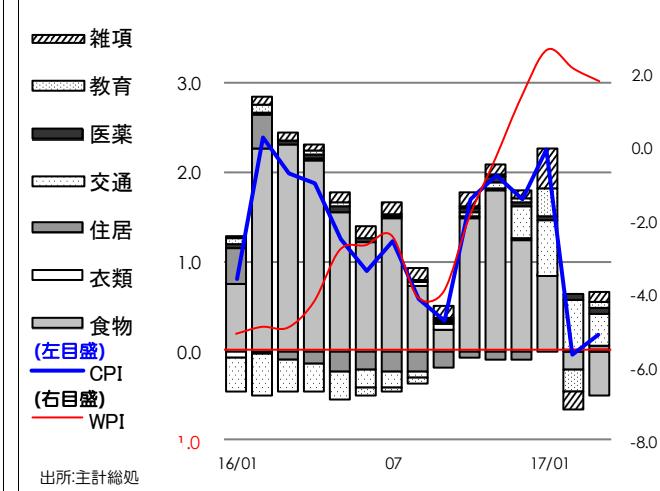
*M1B=現金通貨+普通預金+個人向け普通貯蓄預金+当座預金

図 A1.景気総合判断点数と景気動向指数の推移 出所:国発会**2.物価 2017年3月****a.卸売物価**

金属、化学材料、石化関連製品等の値上げを受けて、前年同月比でプラスで推移した。

b.消費者物価

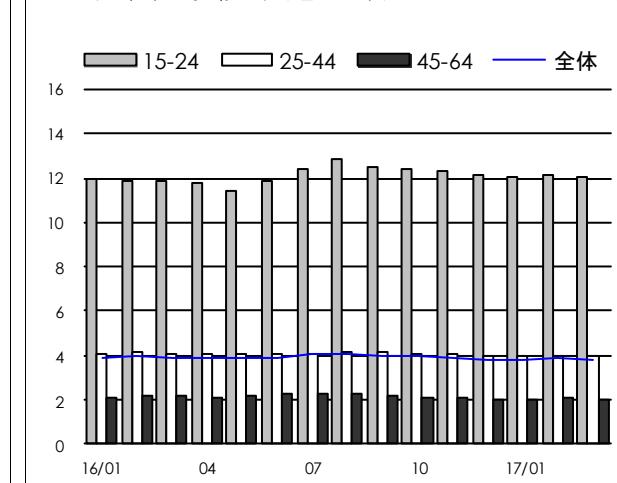
- ①交通類が長距離バスの運賃改定で上昇したこと
 - ②雑項類がたばこ等の値上がりで上昇したこと
 - ③医療保健類が医療費等の値上げで上昇したこと
- 等から、前年同月比でプラスに転じた。

図 A2.物価指数上昇率と構成項目の寄与度 単位%、前年比ベース**3.失業率 2017年3月****a.失業率:3.78%**

前月より0.07ポイント下落した。旧正月前後に退職した従業員の多くが新たな職に就いたため、失業者数は44万5千人で前月より8千人減少した。うち、季節性または臨時性業務の終了等による失業者は3千人、初めての求職活動で仕事が見つからなかった人は2千人、業務縮小または旧廃業で離職した人は2千人減少した。

b.就業

就業者数は、前年同月比+0.68%の1,130万3千人。業種別では、製造業は前年同月+0.43%の304万人、第三次産業は同+0.89%の670万人となっている。産業別就業者数の構成比を見ると、製造業 26.84%、第三次産業 59.26%、その他(一次産業+製造業を除く二次産業)13.90%となっている。

図 A3.失業率の推移 年齢層別 単位:% 出所:主計総局

4.通関貿易 2017年3月**a.輸出**

- ①中国向けの電機機械や金属の活況、精密機器の堅調
 - ②アセアン向けの電機機械や鉱物品の活況
 - ③米国向けの電機機械の堅調、金属の増加
- 等から、前年同月比では6か月連続のプラス成長となった。

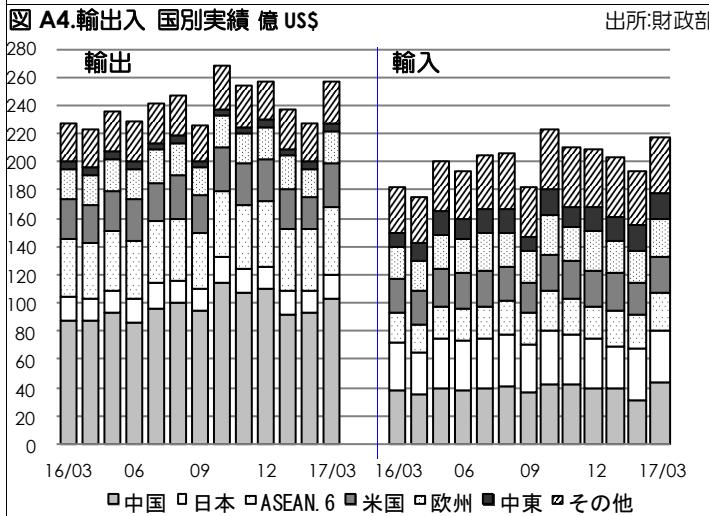
b.輸入

- ①中東からの鉱物品の増加
- ②アセアンからの電機機械の活況、金属の大幅増
- ③中国からの鉱物品の増加

等から、前年同月比では7か月連続のプラス成長となった。

c.収支

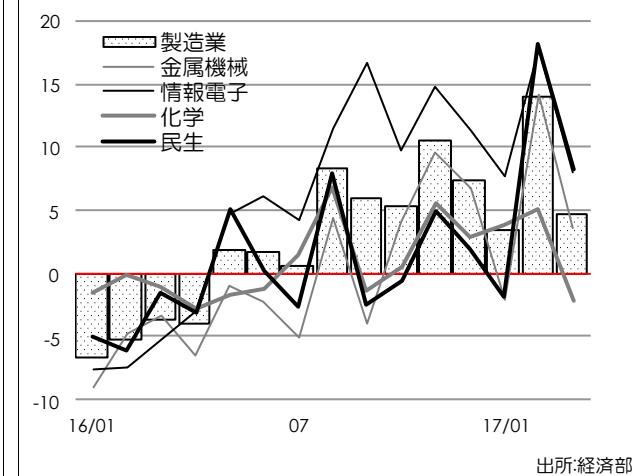
前年比ベースでは、黒字額は対中、対アセアン、対米が増加した。赤字額は対日、対欧が増加した。

**5.鉱工業生産 2017年3月****a.鉱工業生産全般**

IC をはじめとする半導体関連の需要増が全体を押し上げ、液晶パネルも増産したため、前年同月比では8か月連続のプラス成長となった。当局は、今後の展望について、世界経済の回復や中国の労働節連休前の在庫積み増やし等を受けて、製造業の需要が増えるとみている。

b.製造業 4大産業別

- ①金属機械 機械設備や鉄鋼の需要増があったため、プラスで推移した。
- ②電子情報 半導体関連製品の需要増等で堅調な伸びとなった。
- ③化学 プラントのメンテナンスに伴う化学材料の減産でマイナスに転じた。
- ④民生 たばこや飲料等が軒並み増産したことでプラスで推移した。

図 A5.製造業 4大産業別伸び率推移 単位%、前年比ベース**6.小売業売上高 2017年3月****a.小売業全般**

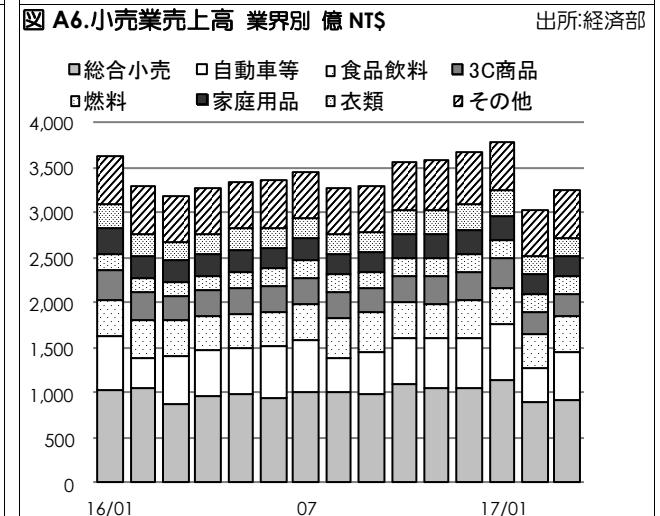
総合小売業（主にスーパー、量販店）と燃料業が全体を押し上げたほか、薬品・化粧品や自動車関連も売上げを伸ばしたため、前年同月比でプラスで推移した。

b.総合小売業

- ①百貨店 化粧品等の販売増があったが、人件費の上昇や中国観光客の減少等微増にとどまった。
- ②スーパー 出店拡大、清明節向けの販促等が売上高の上昇を促した。
- ③コンビニ 店舗数の増加、生鮮食品の販促拡大等でプラスで推移した。
- ④量販店 店舗数の増加、販促活動が奏功し活況を見せた。

c.外食業

レストランの販促活動の実施や、飲料店業の新規出店等で前年同月比でプラスに転じた。

図 A6.小売業売上高 業界別 億 NT\$

2017年Q1の経済成長率+2.60%(暫定値)、IT輸出が好調

出所:主計総処

台湾行政院が2017年5月26日に発表した実質GDP成長率によると、2017年Q1のGDP成長率は前年同期比+2.60%と、4月時点の予測値同+2.56%から上方修正した。

- ・外需をみると、半導体を中心に電子部品の輸出増を受けて輸出が伸びた。
- ・内需をみると、賃金の上昇など雇用・所得の緩やかな改善、株式取引手数料支出の増加が個人消費を支えた一方、乗用車やガソリンの売れ行きの鈍化に伴い、交通類が微増にとどまった。暖冬の影響で衣類・靴や家庭設備等の消費の増勢も弱めた。
- 一方、建設業の投資の低迷が影響したものの、半導体や航空機関連の投資が増加した。

総じて、当局は、回復力は弱いものの、2017通年の成長率についても、2月発表の暫定値(1.92%)から2.05%に上方修正した。半導体の需要増による輸出の回復が主因。ただ、個人消費は緩やかな拡大基調を続けるも、自動車減税の効果過減等により、若干減速に転じる見込み。

一方、米トランプ大統領の経済・通商政策動向、IT市場での競争激化等を注視する必要があると指摘した。

[台湾のGDP成長率と各項目の寄与度]

